

## 令和4年度 第1回 東京都北区在宅療養推進会議 要点記録

開催日時 令和4年8月8日（8月19日までに書面意見書によりご意見・ご質問を募集）

開催場所 書面開催

### 【議事】

#### （1）委員の変更について【資料1】

ご意見なし

#### （2）令和4年度の各検討部会の委員について【資料2】

提示された検討部会の委員になることについて、全員同意。

#### （3）令和3年度北区「在宅医療・介護連携推進事業」活動報告書（案）について【資料3】

##### （主なご意見）

- ・多職種連携研修会ではコロナについてタイムリーな情報をわかりやすくご提示いただき、またWEB開催であったため多くの事業所が参加することができた。
- ・第7波では、陽性または濃厚接触者、濃厚接触者の疑いの時点で撤退してしまう訪問介護事業所があり、介護難民が続出している状況。
- ・落ち着いたらコロナ対応についてのアンケートを実施し今後の課題分析をしてはどうか。
- ・コロナ禍による各種事業の中止、延期が目立った令和2年度に比べ、オンラインによる実施を始め各事業の再開、新たな形での実施などが進んでいることがわかった。
- ・「4 北区在宅療養多職種ネットワーク構築事業」の取組再開に向け、できる事があればぜひ関わりたい。
- ・コロナ禍での連携事業の幅が内輪で小さくなってしまっているように思うので、今後の横の連携をもう少し考えていければ良い。
- ・P13：北区の目指す在宅療養の姿において、「高齢者や障害者、子ども等全ての区民が、医療や介護が必要になっても、安心・安全に住み慣れたまちで、その人らしく充実して暮らしていける在宅療養生活」とある。一方、実際はコロナ対策に最大限の注力を続けたという現状は十分理解できるものの、高齢者対応についてしか言及されていない。今後、ポストコロナに戻れば、本来の在宅療養推進会議の主旨である、共生型ケアを推進する旨の決意は表明すべき。
- ・令和3年度の北区在宅療養多職種ネットワーク構築事業が新型コロナウイルス感染拡大によりすべて中止となった。このコロナ禍のような災害時には多職種による情報共有が必須で、介護職とICT連携が求められていた。ICT普及が進めば、介護職への感染対策のリアルタイムな情報提供も進んだように思う。
- ・コロナ禍においてオンライン活用が盛んになっているが、次年度の課題にある区民向けの啓発事業について、ご年配の方にはまだまだ壁がありそう。とはいえ、小中学校で一人一台タブレットの時代、学生さんなどSNS世代を巻き込んだ形での連携もありなのではないか。

#### (4) その他のご意見・ご質問

- ・新型コロナウイルス感染症にかかる在宅療養者の在宅療養支援情報伝達マニュアルについて、作成できたものの活用に至っていない。内容の精査も含めて早期の活用実現を望む。
- ・抗原検査陽性で発熱等の症状があった場合には陽性の届け出がスムーズにできる仕組みなどがあると良い。(東京都陽性者登録センターはまだ40歳まで)
- ・長引くコロナ対策について、次なる感染症はじめとした健康危機管理に生かせるよう貴重な記録として保管・継承する手立てを検討いただきたい。
- ・課題に「新型コロナウイルス感染症対策を視野にいれた在宅療養生活支援体制の検討。」とある。北区は高齢者の単身者が6割以上、高齢者夫婦のみの世帯を含めると、陽性者になった場合に、生活支援をしていた介護職の訪問が難しいとなると在宅療養の継続が困難になる。北区の高齢者の10日間の療養を支援するための対策が必要である。
- ・地域包括支援センターでは、コロナ禍で精神疾患の方からの相談が非常に増えている(専門分野ではないので対応に非常に苦慮している)。医療分野の方々は年齢による壁はないが、介護分野では障害の方の利用もあり、現場は混乱している。高齢者ほどクローズアップされないが焦点を当ててみても良いのではないか。